

(別記)

高浜市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市では、水田における土地利用型農業を活性化するため、農用地の利用集積による経営規模の拡大と認定農業者の育成に加えて、麦の裏作である大豆を積極的に推進し、ブロックローテーションにより団地化された水田において麦・大豆の本格的な生産拡大と品質の向上を図ることにより、質の高い水田営農に取り組んでいく必要がある。

このため、実需者のニーズに対応した販売・作付計画の策定、麦・大豆等の生産技術と品質の向上、土地利用型農業推進組織の育成強化、麦・大豆等の本格的な生産のために必要な基盤整備の推進を行う。また、水田における作物も水稲に限らず麦・大豆等、意欲的な営農が地域の特性に応じた作物戦略を実現し、今後も実効のある米の生産調整を実施していく。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

消費者や実需者の評価を踏まえ「コシヒカリ」「あさひの夢」「あいちのかおりSBL」を中心に集荷率の向上とロット(同一品質農産物の一定数量のまとまり)の確保を図る。栽培面では、施肥改善と基本技術の励行により品質改善を進める。集荷された米は、自主検査や品質分析を行い、品質の高位平準化を進める。また、共同乾燥施設においては、農協系統の自主規格を踏まえた乾燥調整により品質向上と均質化を徹底するとともに用途や品質に応じた区分管理を実施する。

安全・安心については、計画的な種子更新と栽培こよみに基づく統一した栽培管理と生産履歴の記帳を行うとともに、流通の各段階を通じたトレーサビリティシステムの確立を図る。

また、減化学肥料栽培等により環境に優しい米づくりを推進する。

低コストの面においても、米の消費量の減退が今後も見込まれるなかで経営を確立していくためには、価格競争力の強化とコストの低減が急務となってくる。

このため、農地の利用集積による経営規模の拡大を図るとともに、品種別及び作期別の集団化に努め、大型農業機械及び共同利用施設の効率的な利用を進める。また、育苗が不要で大幅な労働時間の短縮とコスト低減等が可能な不耕起直播栽培の導入拡大を進め、省力低コスト生産を進める。

(2) ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物として位置づけ生産の拡大を図る。主食用品種で取組みを始め、需要動向や種子の供給状況を見ながら、多収品種の導入を検討する。

(3) 麦・大豆

高品質麦の安定生産については、計画的な種子更新を実施するとともに作期分散のできる優良な品種の導入を検討し、適期に播種・収穫作業が行える体制とし、品質の向上をめざす。赤かび病については、防除を徹底する。

産地交付金の産地戦略枠を活用し、地域営農の推進による団地化及びブロックローテーションの下で効率的な生産を行う。安定した収量を確保するため、施肥体系の改善や排水対策の徹底等必要な技術の推進に努める。

安全、安心の面において、生産者による生産工程管理、生産履歴の記帳の徹底をする。

高品質大豆の安定生産については、計画的な種子更新を図り品質の向上をめざす。産地交付金の産地戦略枠を活用し、地域営農の推進による団地化及びブロックローテーションの下で効率的な生産を行う。排水対策の徹底により高い単収を目指すと同時に、病虫害発生予察に基づく適切な病虫害防除を実施することで生産の安定を図る。

安全、安心において、生産者による生産工程管理、生産履歴の記帳の徹底をする。また、地元産の安全性をアピールし、加工業者と連携し需要の拡大を図るなど、実需者のニーズが反映されるよう実需者サイドとの連携強化を図る。

(4) 野菜・果樹

「ナス」「落花生」を振興品目として拡大する。

「いちじく」「みかん」等、地域で振興する果樹に対して助成する。

(5) 不作付地の解消

不作付水田に景観形成作物等を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成28年度の作付面積 (ha)	平成29年度の作付予定面積 (ha)	平成30年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	114	117	117
飼料用米	3	4	4
米粉用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	41	42	43
大豆	14	15	15
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	0.8	1.8	1.8
野菜	0.4	1.0	1.0
花き・花木	0.2	0.2	0.2
果樹	0.2	0.2	0.2
雑穀	0	0	0
地力増進	0	0.2	0.2
景観形成	0	0.1	0.1
その他	0	0.1	0.1

4 平成29年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類	指標	平成28年度 (現状値)	平成29年度 (目標値)
1	麦・大豆	ブロックローテーションによる団地化	イ	実施面積	41	42
2	大豆(二毛作)	ブロックローテーションによる団地化	イ	実施面積	14	15

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり